

神に招かれた者たち

ルカによる福音書一四章15〜24節

主人は言った。「街道や農地へ出て行って、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。」(23)

神の招きによる救いについて、イエスは一つの譬えを語られました。ある人が盛大な晩餐会の準備を整え、招いていた人々のもとへ使いを送りました。ところが招待を受けていた人々が皆、理由をつけて断り出したというのです。これは私たちの霊的な現実を表しています。神の招きよりも自分の都合を優先させてしまうのです。この譬えの主人は、先に招かれていた人々の代わりに、貧しい人、目や足の不自由な人など、欠けの多い者たちを招きました。招かれる資格もない人々が宴席に連なりなりました。彼らはかえって余計なものを持たないために、主の招きに応じることが出来ました。「自分のような者がこのような晩餐に招かれた」と、その大きな恵みに驚いたのです。私たちも、ただ恵みと憐れみによって招かれた者たちであることを喜ぼうではありませんか。